



平成 28 年度総会及び第 1 回研修会開催報告

千葉経済大学短期大学部にて、平成 28 年度総会及び第 1 回研修会を開催しました。ネットワーク協議会加盟館 25 館のうち 20 館(委任状 5 館)、28 人の参加を得て、総会における議事は全て承認されました。

研修会では、千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部の佐久間勝彦^{まきくまかつひこ}学長によるアクティブ・ラーニングについてのご講演、千葉経済大学短期大学部の新校舎見学など、非常に有意義な研修会となりました。

日時 平成 28 年 6 月 30 日(木)
14 時 00 分～15 時 00 分:総会
15 時 00 分～16 時 50 分:第 1 回研修会
会場 千葉経済大学短期大学部



千葉経済大学短期大学部



齊藤誠一 会長



総会

- 1 開会
(1)会長挨拶
- 2 議事
(1)平成 27 年度事業報告について
(2)平成 27 年度会計決算報告について
(3)平成 28 年度事業計画(案)について
(4)平成 28 年度会計予算(案)について
(5)平成 28 年度役員(案)について
(6)その他
- 3 連絡事項
・平成 28 年度会費の納入について
・加盟館調査について
- 4 閉会

役員^{役員}の任期満了に伴う改選により、新役員は次のとおりです。

理事 会長 齊藤 誠一 (千葉経済大学総合図書館)
副会長 幸島 隆夫 (千葉市稲毛図書館)
吉野 知義 (神田外語大学附属図書館)
角田 晴夫 (敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター)
安宅 仁志 (千葉県立中央図書館)
高橋 菜奈子(千葉大学附属図書館)
山本 淳一 (放送大学附属図書館)
二階 宏之 (日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館)
南波 省吾 (増田学園図書館)
監査 鈴木 康夫 (千葉市生涯学習センター)
松本 伸一 (千葉市議会図書室)
事務局 千葉市中央図書館

千葉市図書館情報ネットワーク協議会 加盟館一覧(平成 28 年度)

No.	加盟館(室)名	No.	加盟館(室)名
1	量子科学技術研究開発機構本部図書館	14	千葉市若葉図書館
2	神田外語大学附属図書館	15	千葉市緑図書館
3	敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター	16	千葉市美浜図書館
4	淑徳大学附属図書館千葉図書館	17	千葉大学附属図書館
5	千葉経済大学総合図書館	18	千葉明德短期大学図書館
6	千葉県立中央図書館	19	東京情報大学情報サービスセンター図書情報部
7	千葉市議会図書室	20	放送大学附属図書館
8	千葉市教育センター図書資料室	21	日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館
9	千葉市美術館美術図書室	22	植草学園大学・植草学園短期大学図書館
10	千葉市中央図書館	23	千葉市生涯学習センター調査・資料室
11	千葉市みやこ図書館	24	千葉県立保健医療大学図書館
12	千葉市花見川図書館	25	増田学園図書館
13	千葉市稲毛図書館		

※東京歯科大学図書館については、理事会にて退会が承認され、平成 28 年度加盟館は 25 館となりました。

研修会報告

「講演会『アクティブ・ラーニングの舞台としての図書館』を聞いて」

千葉大学附属図書館

高橋 菜奈子

“アクティブ・ラーニングを支えるのは人、図書館はその舞台である”

平成28年6月30日に千葉経済大学において、研修会が開催されました。リニューアルされた千葉経済大学短期大学部の講義棟において、学長の佐久間勝彦先生からご講演をいただきました。冒頭で「アクティブ・ラーニングを支えるのは人、図書館はその舞台である」という考え方を述べられ、次の3つのお話をされましたので、ご紹介します。



千葉経済大学 佐久間勝彦学長

(1) 読書小学校へ向かう「ちいさなことなのに、とても長い旅」

講演の最初は「読書小学校」の話から始まりました。「読書村」はドクシヨムラなのかヨミカキムラなのかという謎解きから始まり、歴史上、実在したことをつきとめます。現在は市町村合併によって南木曾村になってはいるものの、字名が残っていることを手掛かりに現地を訪

れ、そこで親切な住民の方に会い、新しい本と出会う様子をお話いただきました。佐久間学長の話術に引き込まれているうちに、自分まで一緒に読書村を旅してくるような感覚を味わいました。

(2) 「閉じられている世界」をそっとひらく図書館

この読書村の話の後にくると、「どんな世界のことについても、ある程度、知る。これが教養である。」という荒川洋治の言葉の重みが増してきます。大学では専門分野の教育重視となり、教養教育が薄くなりつつあるが、しかし、世界は広い。学生に広い世界を学んでほしい、という佐久間学長の思いが強く伝わってきました。

次いで、図書館員にはおなじみの映画「図書館戦争」のストーリーの中から、読書の自由を守るために組織された図書特殊部隊の隊員と聴覚を失った少女の交流場面が紹介されました。とらえられた隊員をかばう少女が、聴覚障害者の少女が恋をする物語を読むことで、「閉じてしまった世界を再び開くカギのように思え」たという言葉が引用され、読書がもつ力を説かれました。



(3) アクティブ・ラーニングの舞台としての図書館

能動的な学修に関する話題では、現在、大学で教鞭をとっておられる佐久間学長ご自身の体験も引きながら、アクティブ・ラーニングが今なぜ必要なのかということから解説していただきました。一方向的に知識が流れる、すなわち、知識を教えるという教育から、学生が学ぶ方向へと舵を切るべきだというのがアクティブ・ラーニングです。現代の社会の特徴を佐久間学長は「検索型知識社会」という言葉で表現されました。自分の知りたいことは検索できるのだから、自分で知ることができるようにする。教員が知識を与え、覚えておけ、というものではないのです。どうしたら、知りたいことを知ることができるかを、能動的に学ぶことが求められるようになったと

いうのです。背景として、小中学校では教師と生徒のやりとりの中で「どう考える？」という発問が自然と出てくる授業がなされるのに比べて、今までの大学では一方的な知識伝達型の講義になりがちでした。大学教育を変え、グループワークで自分の考えをもってディスカッションするには教師の側の周知な準備が必要です。アクティブ・ラーニングというすぐ連想されるようなディスカッション型の学習形態だけを取り入れればよいのではなく、アクティブ・ティーチングが大事であるということが強調されていました。教師に視点を置いたアクティブ・ラーニング論は、長年、社会科教育を研究されてきた佐久間学長ならではのお考えであると思います。



最後に竹内紀吉先生の「松本の少年」の紹介もされました。図書館に強い関心を持っていた中学生が、その後、「松本の図書館を語る会」に参画するストーリーから、図書館活動に深く関わる若い人たちが育っていくことの大きさがよくわかりました。

「学生は未来から訪れた留学生」

ご講演を拝聴して、全体として、アクティブ・ラーニング全盛の時代に図書館は何をすればいいのかということについて考えさせられました。その点で、私が最も感銘を受けたのは、講演の中で紹介された加藤寛の言葉「学生は未来から訪れた留学生」という言葉です。彼らは未来に帰っていく。未来の問題を解する能力をはぐくむことが教育であり、20年後30年後に予想しない問題が起こった時に解決する能力を育成するのがアクティブ・ラーニングである、ということです。大学生が勉強しないとか、最近の若者は本を読まないなどとこぼしながら学生に接するのではなく、彼らの未来に思いをはせ、彼らの可能性のための環境を整備することこそが図書館に

できることなのではないかと思った次第です。

千葉大学でもアカデミック・リンク・センターを設置し、数年にわたって、学習支援のための取り組みをしてきました。本学の学生たちは図書館でよく勉強し、学習の効果も上がっていることが実証されています。未来の大学では紙の本を備えた図書館だけでなく、バーチャルな図書館空間も存在し、学生たちがウェブ上で活発にディスカッションしているのかもしれませんが。図書館という学術の基盤を整備すること、物理的にもバーチャルにも整備することによって、未来を担う学生のためにアクティブ・ラーニングの舞台を残したいという思いを強くしました。



施設（図書館）見学

「千葉経済大学短期大学部新校舎、千葉経済大学総合図書館及び旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築を見学して」

千葉市中央図書館

秋葉 千恵

“煉瓦敷きの道の先に見えたのは、大きなガラスが眩しい建物”

少しの蒸し暑さの中、真っ直ぐに伸びた白い煉瓦敷きの道の先に見えたのは、大きなガラスが眩しい建物でした。さて、一体何階建てなのかしらと見上げると、どうやら校舎は5階建。上を見すぎて首が痛くなってはいけないと視線を逸らせば、右手には木漏れ日のこぼれる小路が見えましたあの先には何があるのだろうと私の想像力を逞くさせました。

千葉経済大学短期大学部新校舎見学

齊藤会長案内の下、新築された短期大学部校舎から始まり、総合図書館、旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築の順で見学させていただきました。そろそろと

見知らぬ大人たちが校舎内を歩いて各々一心に見学し、時には質問や感想を言い合う様子は、見学があることを知らなかったのだろう学生たちを驚かせたのではと思います。それでも笑顔で“こんにちは”と挨拶してくれたのは、こちらの気持ちも明るくしてくれました。



グループラーニングスペース

短期大学部校舎の見学は、総会・研修会の会場である2階から上に進み、大講義室、パソコン室、テラスなどをご紹介いただきました。なかでも、グループラーニングスペースで身を寄せ合い勉強する学生を見た時には、佐久間学長の講演テーマであるアクティブ・ラーニングが実現されていることを感じました。

千葉経済大学総合図書館見学

総合図書館の見学は、2階、1階、中2階とご紹介いただきました。お邪魔した時は、ちょうど日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館との共催の企画展示「アジアを巡る文化の旅」が開催中であり、展示内容についてアジア経済研究所図書館の二階様のお話も聞くことができました。



旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築外観
旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築見学

旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築は、

短期大学部校舎の横から覗いた小路と学生ホールの先にありました。歴史を感じる赤茶色の煉瓦と、特別に見せていただいた内装の建物奥まで連なる大きなアーチの列が印象的でした。

図書館をより使ってもらうために

大学図書館と公共図書館。所蔵資料や利用者の違いはあれども、本を好きになって欲しい、図書館を使って欲しいという思いは一緒だと感じています。学生たちの書評や見る人を考えて作ら

れた企画展示を見て、もっと身近な図書館であるために、何が出来るのだろうか、どうしたらより図書館に興味を持ってもらえるのだろうか、己の仕事を振り返り考えるきっかけとなりました。

最後になりましたが、短期大学部新校舎及び総合図書館、そして貴重な文化財である旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築を見学させていただきましたこと、心より感謝申し上げます。



1/千葉経済大学短期大学部の新校舎内 2/図書館内の企画展示「アジアを巡る文化の旅」の見学。アジア各国の貴重な資料を展示している。8月31日まで開催 3/図書館内にある「学生ブックツアー」のコーナー。学生による書評とともに本を紹介している 4/図書館1階入り口のリサイクルコーナー。雑誌等の無料配布を行っている 5/図書館の書架見学の様子 6/校舎内には学生がグループで話し合うことのできるスペースがいくつもある 7/校舎5階にあるテラス 8/旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築内の様子。煉瓦のアーチがいくつも連なっている。なお、崩落の危険から一般見学はできないとのこと 9/煉瓦建築の外に残されているレール跡

千葉経済大学総合図書館 データ

所在地: 千葉市稲毛区轟町3-59-5

TEL: 043-253-9941

FAX: 043-255-3831

開館日時: 平日 8:45~19:00、土曜 8:45~16:30

休館日: 日・祝日・年末年始・大学が定めた日・春期・夏期・冬期休業中の一定期間・大学祭(11月初旬)

利用対象: 学校関係者(学生、教職員、卒業生、附属高校生)、県内在住・在勤・在学中、満20歳以上又は大学・短大に在籍する方、その他館長の許可を得た方

その他: 【閲覧】可: 身分証明書(入館時、記録票に氏名等を記入)

【貸出】可: 利用者登録を行い図書館利用カードの交付を受ける

【座席数】192席

千葉経済大学総合図書館 HP:

<http://lib.cku.ac.jp/>



「旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築」概要

煉瓦造アーチ構造、木造小屋組の建物で、面積は695.6㎡。煉瓦構造の主要部分は54.4m(約30間)×7.3m(約4間)と細長い長方形を呈している。明治41年、鉄道第一聯隊材料廠の建物として建築され、大正12年千葉陸軍兵器廠、昭和20年大蔵省から旧日本国有鉄道が借り、列車・レール等の修理工場として使用。昭和60年からは学校法人千葉経済学園の所有となった。千葉県内に数少ない明治年間創建の大規模な煉瓦建築であり、特に内部にある10連の雄大なアーチ構造はこの建物の特徴で、全国的にも例がない。我が国の初期の煉瓦建築の構造を知る上で極めて重要であり近代建築史及び煉瓦建築の歴史を考える上でも貴重な建物である。(出典: 千葉経済大学総合図書館企画展示「旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築」写真パネル展「学び舎に残るレンガ建築」)

千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成10年10月から発行している。

Network通信 No.49 2016年8月19日発行

千葉市図書館情報ネットワーク協議会事務局:

〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7 千葉市中央図書館内

TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074

千葉市図書館情報ネットワーク協議会 HP: <http://www.ccal.jp/>

